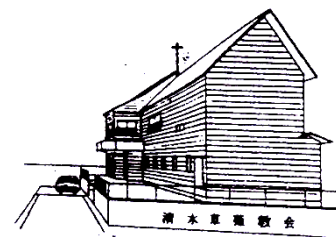


≪今朝の聖書から≫ 私たちは、毎年クリスマスを決められた日におこないます。毎年やってきます。今年はどうなクリスマスでしょうか。今朝は、まず“変えられる”ということについて考えてみましょう。私たちは変えられたことがあるのでしょうか。草薙教会の礼拝も、週報の番号を見ればわかるように、2800回、ざっと56年になります。変えられるチャンスは、礼拝の度にあっただけです。ここに記録されている出来事では、羊飼いたちが変えられました。苦痛の中で精いっぱい生きていた羊飼いたちは、主に礼拝をささげ、主を賛美する喜びの人として、精いっぱい生きていく人達に変えられたことがわかります。別の道を通って帰って行った博士たちは、主に捧げた後、道を変えられたのです。このことについては、“清水市民クリスマス”でもメッセージにおいて取り上げられました。“彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた(2:17)”とあるように、怪しんでいた心で、ダビデの町・ベツレヘムを訪れたのが、主を賛美しながら帰ってゆく者に変えられたのです。神様はどんなときにも強引な権威の行使はなさいません。イエス様にゆだねられた方法をとられるのです。“見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている”と復活のイエス様は、ヨハネの黙示録3:20において語られます。神は、私たちと“その人格そのものにおいて”人と同じ低さになられる方法をとられるのです。栄光の神がそのようななられたのです。そうしないと私たちは、神様との差に悩むばかりで、語り合うことができないのです。羊飼いの記録に戻りましょう。どうして、礼拝を捧げたのでしょうか。幼子だったからでしょうか。旧約聖書にあるからでしょうか。違います。その方が、救い主であることがわかったからです。どうしてわかったのでしょうか。今朝の個所に隠されているもう一つの言葉が、“救い主を知る”ということです。“神の救いを経験する”と言ってもよいでしょう。私たちも、よく証をしますし、それは良いことです。しかし、どんなに“神様が私にしてくださったこと”を語っても、最後には、“わかったのです”と言うでしょう。また書くでしょう。決して身分の高くはない羊飼いたちは、神様を体験したのです。マリヤも忘れませんでした(ルカ3:19節)。私たちも、神様を信じ、救い主を知って罪赦されたと思った時、神様を知ったのです。雑音でドアをたたく音が小さくても、人々が聞いて不思議に思っても(3:18)人となられた、共にいる神様を知ったのです。

週報

2007年 12月 23日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸